

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス夢未来		公表日		2026年 2月 5日	
		チェック項目		工夫している点		課題や改善すべき点	
		はい	いいえ				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	新しい施設が完成し、一人が利用できる活動スペースが広くなり、2階には運動や行事ができる多目的室で有効な活用ができています。	運動プログラムや机上プログラムに分かれて活動する際、職員が二手に別れるので手薄となる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	利用者の人数の増加に伴いフルタイム・パート従業員も増員し、適切な支援体制に努めている。	職員の配置はかなり改善されてきたが、送迎時職員が出る場合、手薄になるところがある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	施設はバリアフリーになっていて、トイレにも手すりがあったり、利用者が理解しやすいようにイラストで指示を伝えたりしている。	今後も個々の特性に応じて課題や改善すべき点があれば、環境の配慮に努めていきたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	朝は職員による清掃、終了時には利用者と一緒に清掃を行っているため、利用者が心地よく過ごせる施設になっている。	今後も継続して心地よく過ごせる環境を保ってきたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	利用者が心を落ち着かせる部屋がないため、現在は相談室等を利用している。個々の状況に応じて場所等を選んで利用している。	保護者が相談に来所されている時は利用できない。場合によってはパーテーションで仕切ったのを利用してほしい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	PDCAを繰り返す事によって業務改善及び質の向上が図られる事は職員間で認識しており、その評価・分析・実行には全職員が参画している。	PDCAサイクルを重視し、今後もその都度話し合いを設け、職員間で共通理解を図ってほしい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	保護者向け評価表は各保護者に公開しており、その結果・内容については職員間で共有し、業務改善に繋げている。	保護者からの意向は出来得る限り希望に添えるよう配慮してきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	代表取締役との個人面接の機会を年に数回設けており、スタッフの意見等を反映して業務改善に繋げている。	職員が安心して専門性を発揮できる環境を整えることが、利用者への質の高い支援に直結すると確信している。面接時のみではなく、意見の出しやすい環境を心がけていきたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5		第三者による外部評価は実施していないが、問題が発生した場合には外部評価をお願いして実施する予定である。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	必要な場合、研修会に職員が参加できるように配慮されている。	今後も職員間で分担し、参加するよう努めていきたい。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	支援プログラムを個別に作成し、一人一人に対応したプログラムを提供している。	今後も継続して、その都度活動記録を公開してきたい。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	作成した支援プログラムは保護者に配布・公表しており必要に応じて適時更新変更を行っている。	今後も個々の利用者、保護者からの聞き取りをし、課題を共通理解し取り組んでいきたい。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	全職員による定例ミーティング等により職員間で情報共有する事で共通理解の下、常にこどもの利益優先の支援を検討している。	個々の課題を共通理解し支援に取り組んでいる。今後も日々の変化等気づいたことはその都度情報を共有してきたい。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	定例ミーティングの他、随時職員間での意見交換を行い情報共有しながら計画に沿った支援を行っている。またこどもの状況や状態に応じて変更や更新も随時行っている。	今後も個々の課題を共通理解し支援に取り組んでいきたい。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	適切なアセスメントは利用者の自立支援や生活向上に繋がるものと認識して、利用者の日常を観察する中で利用者の特性や状況を考えたアセスメントも併用している。	今後もフォーマルなアセスメントはすぐに確認。インフォーマルなアセスメントを職員間で共有し確認するようにしていきたい。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	ガイドラインの各支援については、その支援内容によって利用者が必要とする支援を検討した上で適切に設定した具体的な支援内容としている。	今後も項目別に提供者の担当を決め、支援内容を設定してきたい。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	活動プログラムの立案は利用者の特性に応じてそれぞれの職員の意見を反映しながらチームで作成している。	今後も職員間で課題を共通理解し、行ってきたい。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	個々の状態に合わせて様々な「遊び」や「学び方」を考えて固定化しないよう工夫している。	今後も活動プログラムが固定化しないよう学校での学習の様子や利用者の希望に応じてプログラムを決定してきたい。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	個別活動と集団活動（ゲーム・イベント・運動等）は計画的にスケジュールを組みながら支援している。	今後も個々の状況に応じて作成し支援してきたい。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	学習、記録、送迎等の役割分担の確認は毎回行っており、連携して適材適所に努めている。	今後も前日及び当日に内容、役割分担を確認して支援を行い、週間・月間予定も確認してきたい。日によっては職員の負担が増えることもあるので今後の分担を検討してきたい。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	支援終了後には反省点、感じた事等、助言やアドバイス、改善点や課題も含め職員間で情報共有はしている。	今後も振り返り、気付いた点はすぐに共有し、その場にはない職員にも伝え共有するように心がけていきたい。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	支援内容や利用者の状態、状況については写真と文章で記録入力しており、常にこどもに最適な支援を検証し改善している。	当日中に記録をとり、経験値の違う職員それぞれの視点で気付いた点を話し合い改善に繋げるようにしていきたい。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	定期的に利用者モニタリングを行ったり計画の見直しを行ったりしている。	今後も利用者の変化を確認し、定期的にモニタリングを行ってきたい。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	「自立支援と日常生活の充実」「創作活動」「地域交流の機会」「余暇の提供」これらの活動を計画的・複合的にこどもに適したかたちで支援を提供している。	今後も個々に応じた支援を行ってきたい。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	好きな遊びや、チャレンジで利用者自らが選べるよう支援している。自己選択が難しい子どもには興味を持てるような内容を提案し、選択できるようにしている。	選択する必要がある場合、利用者が自己決定できるよう職員が対応してきたい。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	管理者の他教育資格者（元教員・保育士等）が携わっている。	会議には子どもの状況をよく理解した者が参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	利用者の医療関係等の連携はしていないが、保護者からの聞き取り等に対応できている。教育等の関係機関との情報共有は必要に応じてできている。	必要に応じて関連機関と連携をしていきたい。	

関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	学校との連絡、情報共有は常時行っており担当教師からの日常生活や体調面も聴取している。	下校時間を確認した際、不明点等があれば保護者と連携をとり、しっかり情報共有をしていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	就学前の各施設との情報共有はこどもの成長の過程や変化も含めた重要な情報として捉えており、相互理解をする事で現状に合わせた適切な支援が行えるよう努めている。	今後も児童支援事業所等との間で連絡を密にとって児童に関する状況を細目に把握していきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	現在のところ該当する利用者はいないため、今後移行先の情報提供の要請には柔軟に対応する予定である。	今後、社会福祉サービス事業所へ移行する場合には優位な情報を提供していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	4	現在、児童発達センターとの連携は取っていない。	児童発達支援センターが地域には一つだけあるが、現在は連携をしていないが相談できる体制は確保できている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5	他の児童クラブとの交流する機会は開所日が平日なこともあり、行っていない。	地域との交流活動をする時間の確保が難しい現状がある。再び、土曜日の営業を再開した場合にはできる範囲で地域との交流活動を計画していきたい。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	7	0	市町村(自治体)が行う講義、協議等には積極的に参加している。	職員の勤務を分担しながら参加に努めている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	日々の記録や実際の様子をもとに利用者の状態を伝え、保護者と共通理解をしている。	今後も利用者の状態から変化が見られたときは、保護者に連絡し、状況を細かく伝えるようにしていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4	家族との連携を深めるため、いつでも気軽に相談に乗ることのできる体制を構築している。	家族支援プログラムや家族等の参加できる研修会を本事業所では実施していないが、参加できる研修会等の情報提供は行ってきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	保護者の見学の際にアセスメントを行うとともに利用上の詳細な説明を行っている。	信頼関係及び意思疎通を図るため、より丁寧な説明を心掛けていきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	保護者から希望や要望を聞き取り、スタッフ間で共有した上で利用者の計画を立案。現状や変更も含めて随時家族との確認や承諾を得る機会を設けている。	今後も常に子供や家族の意思を確認する機会を設け、支援計画の際には意向を第一に作成していきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	相談支援事業所からの情報や保護者とのヒアリングを元にデイサービス計画を作成し、保護者への説明を行い同意を得ている。	今後も保護者から児童発達支援の同意を得るために時間をかけて説明する機会を設けていきたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	利用者の日々の支援状況は常時公開しており、面談やメール等により常に保護者とのコミュニケーションの中で必要に応じて助言やアドバイスをしている。	保護者と連絡を取り合い、アドバイスを行っていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	4	利用者の保護者の交流会は現在開催していない。	利用者の保護者会を開催する予定はないが、行事等への保護者の参加・協力はお願いしている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	苦情対応マニュアルを作成しており、苦情やトラブル発生時には円滑かつ迅速に解決する為の処理体制・手順を整備している。	子どもや保護者からの相談や要望については事業所内のスタッフで早急に検討して、保護者に対応している。今後も保護者が相談や要望をしやすい雰囲気を作りたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	システムを利用し日々の様子や行事予定のお知らせなどを発信している。	利用者の活動の様子を毎日伝えるときに、行事等の予定を伝えて情報共有に努めている。今後も継続していきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	個人情報の取り扱いには十分注意し、書類の管理を徹底している。やむを得ない場合は管理者の許可を得て持ち出しをしている。	個人情報については事業所外に持ち出さないで、鍵のかかる棚で保管をしている。最新の注意を払って今後も対応していきたい。やむおえず持ち出す場合には管理者に許可を得ている。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	障害児の状態や現状は保護者から情報を得ており、それを職員間でも共有して支援方針を計画。支援の中で保護者との意思疎通や連携は不可欠であると認識している。	個々の利用者の状況を職員間で共通理解し、支援方針を確認して対応している。気になる点については保護者と連携をして取り組んでいきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2		地域に開かれた事業運営はしていない。地域に開かれた事業運営については、事例を参考に検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	各種マニュアルについては担当責任者を配置しており、入所時に保護者に説明。消火模擬訓練、地震・火災発生時の避難訓練は非定期的ながら行っている。	訓練を実施した際には、保護者へ訓練の様子の配信をしている。マニュアル等については保護者への周知は契約時に説明をしているだけであり、今後は丁寧な説明を継続していきたい。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	災害や感染症などの緊急事態発生に備えてのBCPは策定。各発生事業についての防止・避難・救出訓練は非定期的ではあるが行っている。	業務継続計画(BCP)を策定し、非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を実施して利用者やスタッフの意識を高めていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	1	契約時に保護者の面談及び相談支援事業所からの情報により利用者の状況を把握。その後の状態、変化についても保護者と連携しながら確認している。	保護者から服薬や発作等について常に保護者と共通理解をしている。また、毎日の健康チェックを実施して健康状態の把握をしている。今後も継続していきたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	各種安全計画(防災・感染症等)の計画書を作成。全職員での研修や訓練も実施しており、利用者の安心、安全を第一として支援している。	保護者から医師の指示や配慮することを確認している。また、食物アレルギーのある利用者には、食べ物を提供する行事の前に必ず確認している。今後も継続していきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	各種安全計画(防犯・防災・虐待・感染症等)の計画書を作成。非定期的ではあるが全職員での研修や訓練も実施しており、こどもの安心、安全を第一として支援している。	安全管理に必要な訓練を実施しているが、利用者の利用日が違うために全員に訓練させることが難しい。利用者の多い日に実施するようにする。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	防犯・防災については作成したマニュアルを家族に説明しており、万一の事態に備えて連携は図っている。	防災訓練等をした場合は保護者に訓練内容を周知している。今後も継続していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	7	0	重大事故には至らないものの危険性を含む事象については、その事象の原因を職員間で共有・分析し具体的な対策を講じる事で再発防止に取り組んでいる。	令和7年4月から新築の鉄筋の施設になり、安全面は配慮した設計になっている。今後、ヒヤリハット的事象が発生した場合は、原因を究明して二度と起こらないように対応していきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	施設内で代表者を委員長として虐待防止対策委員会を設置。委員会・研修会を年に各2回開催している。虐待発生時にはその都度開催する事とし、状況及び対応記録をするともに再発防止に取り組んでいる。	今後も虐待防止の理解に深め、職員の資質向上に努めていきたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	1	利用者の状況に応じて他の利用時へ危害を加えるような場合のみ、身体拘束を実施する予定になっている。放課後等デイサービスへの計画には記載していない。	身体拘束は行わないことを職員間で共通理解しているが、他の利用者等に危害を加えるようなときにはやむを得ず身体拘束をする必要がある場合、保護者等に報告したい。	